



2017年10月21日(土) → 2018年2月18日(日)
 国立科学博物館 東京・上野公園

ポリビアのウユニ塩湖のポスター
 うひもに結び目を作り、情報を記憶したとある。映像では何度かみたことがある。ナスカの地上絵。上空からみればよくわかるが、平面の地上でどの

「上野恩賜(おんし)公園」。もともと皇室の所有であったものを国民全体のものにしたもので、広さは五十万平方メートル。東京芸術大学は創立時から皇室との関係も深く、大正から昭和初期にかけての皇族の成婚、即位の際などの献上品が特別に展示されていた。写真が撮れなかったので求スターを掲載する。

「一回目は一九九四年の『黄金の都・シカン発掘展』。千五百メートルという広大な地域で、ナスカ、ティワナク、

「インカ帝国展」マチュピチュ発見一〇〇年。そして今回がその集大成の『古代アンデス文明展』なのである。

南米大陸の太平洋岸、南北に四千メートル、標高差四千五百メートルという広大な地域で、ナスカ、ティワナク、

シカン、インカなどの九つの文化の中から約二百点の貴重な資料が展示されていた。

十六世紀にスペインによつて滅ぼされるまで約一万五千年間に多種多様な文化が盛衰を繰り返していたというだけで胸がときめく。

私には近代文明よりも古代文明の方が遙かに魅力的である。それは遠い昔の未知の世界というように思える精神的な豊かさを感じるからである。

高度な文明を持ちながら文字を持たなかったインカも大学美術館まであるのだ。

上野公園の正式名称は「上野恩賜(おんし)公園」。もともと皇室の所有であったものを国民全体のものにしたもので、広さは五十万平方メートル。東京芸術大学は創立時から皇室との関係も深く、大正から昭和初期にかけての皇族の成婚、即位の際などの献上品が特別に展示されていた。写真が撮れなかったので求スターを掲載する。

「世界遺産ナスカ展」地上絵の創造者たち。三回目が二〇〇八年の「アンコールワット世界遺産ナスカ展」地上絵ふたたび。四回目は二〇〇九年の「インカ帝国のルーツ」黄金の都シカン。五回目は二〇一二年の「インカ帝国展」マチュピチュ発見一〇〇年。そして今回がその集大成の『古代アンデス文明展』なのである。

南米大陸の太平洋岸、南北に四千メートル、標高差四千五百メートルという広大な地域で、ナスカ、ティワナク、

シカン、インカなどの九つの文化の中から約二百点の貴重な資料が展示されていた。

十六世紀にスペインによつて滅ぼされるまで約一万五千年間に多種多様な文化が盛衰を繰り返していたというだけで胸がときめく。

私には近代文明よりも古代文明の方が遙かに魅力的である。それは遠い昔の未知の世界というように思える精神的な豊かさを感じるからである。

高度な文明を持ちながら文字を持たなかったインカも大学美術館まであるのだ。

上野公園の正式名称は「上野恩賜(おんし)公園」。もともと皇室の所有であったものを国民全体のものにしたもので、広さは五十万平方メートル。東京芸術大学は創立時から皇室との関係も深く、大正から昭和初期にかけての皇族の成婚、即位の際などの献上品が特別に展示されていた。写真が撮れなかったので求スターを掲載する。

サビエル生誕五百年
 巡礼の道
 藤屋侃士 (下松市幸ヶ丘)
 575
 魅力あふれるアンデス文明展
 東京旅・美術館巡り③

皇室の彩
 130周年記念特別展
 10月28日(土) - 11月26日(日)
 東京芸術大学 大学美術館
 この秋、皇室とともに、名品とともに、皇室を知る

皇室の彩展のポスター
 ようにして、また何のために創造したのか。あるうか。多くのアンデス文明の文化の中で共通している大自然を神と崇め